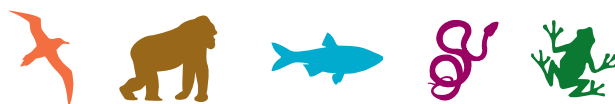




FACTSHEET

SEPTEMBER
2020

Sustainability



生きている地球レポート2020

～ 生物多様性の減少から回復へ～



© Jonathan Caramanus / Green Renaissance / WWF-UK

いま世界では、大規模森林火災、バッタの異常発生、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行など甚大な災禍が続いています。自然の警告ともいえるこれらの現象は、人間の健康で安全な暮らしと自然とが、いかに深くかかわっているかを示しています。1970 年以降、世界の貿易規模、消費量、人口は増大し、都市化が進んだため、地球の陸域の 75% が改変され、湿地の 85% が失われました¹。自然の回復は、野生生物だけでなく、80 億人の未来にとっても最重要課題なのです。

将来を決定する次の 10 年：

グリーン・リカバリー、2030 年野心的目標設定が重要

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大は、世界がひとつであることを再認識する機会となりました。地球環境もまたひとつであり、各国が協力して危機的状況を乗り越え、持続可能な回復策の実行を求められています。これまでのような地球の限界を超えた生産や消費を見直し、人と自然の関係を修復するときです。自然を回復させ、気候変動を抑えることは、人々の食料確保や健康リスクを減らすために不可欠であり、持続可能な開発目標 (SDGs) の達成にも深くつながっています。

2021 年 5 月開催予定の生物多様性条約締約国会議では、生物多様性回復のための 2030 年目標が合意されます。これからの社会を方向づける重要な決定にあたり、野心的な目標を設定し、実行する必要があります。

日本では、コロナ禍によって停滞した経済の復興が課題となっています。この機に、生物多様性を回復させ、地球温暖化を抑えるような、新たな経済のしくみやライフスタイルの転換を求める「グリーン・リカバリー」を推進することが重要です。



© naturepl.com / Alex Mustard / WWF

¹ IPBES. (2019). Global assessment report on biodiversity and ecosystem services of the Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services. IPBES secretariat, Bonn, Germany.

生物多様性を回復させるシナリオはある！

WWF は、約 40 の大学、保護団体、政府間機関で構成されるコンソーシアム「ベンディング・ザ・カーブ・イニシアチブ」² のメンバーとして、陸域の生物多様性の減少を止め、回復する方法について研究しました。この研究は、このまま何もしなかった場合と複数の対策を組み合わせた場合の計 7 種類の将来予想仮説（シナリオ）をたて、生物多様性の回復傾向を分析したものです（図 1）。現状のままでは生物多様性の減少は止まりません。また環境保全策の強化だけでは生物多様性の減少を抑え、回復の兆しができる程度です。元に戻すまで回復させるには、持続可能な生産と消費策を組み合わせた統合的な取り組みが必要であることがわかります。

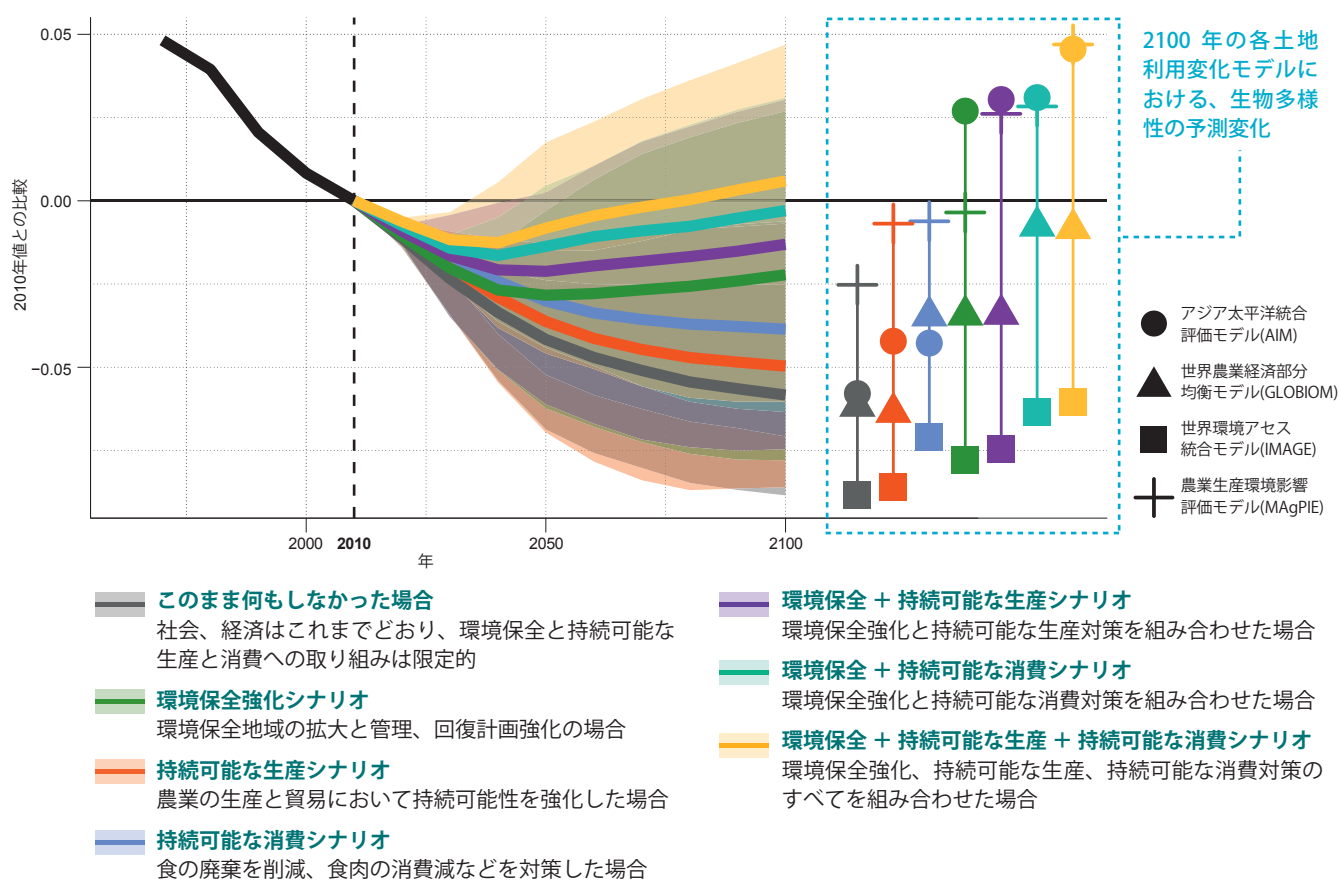
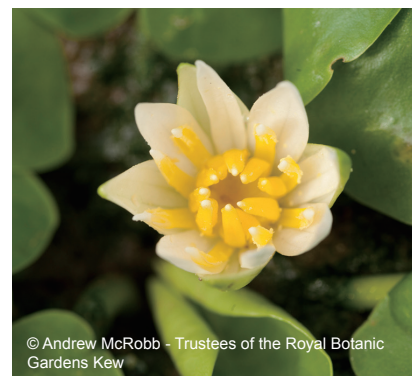
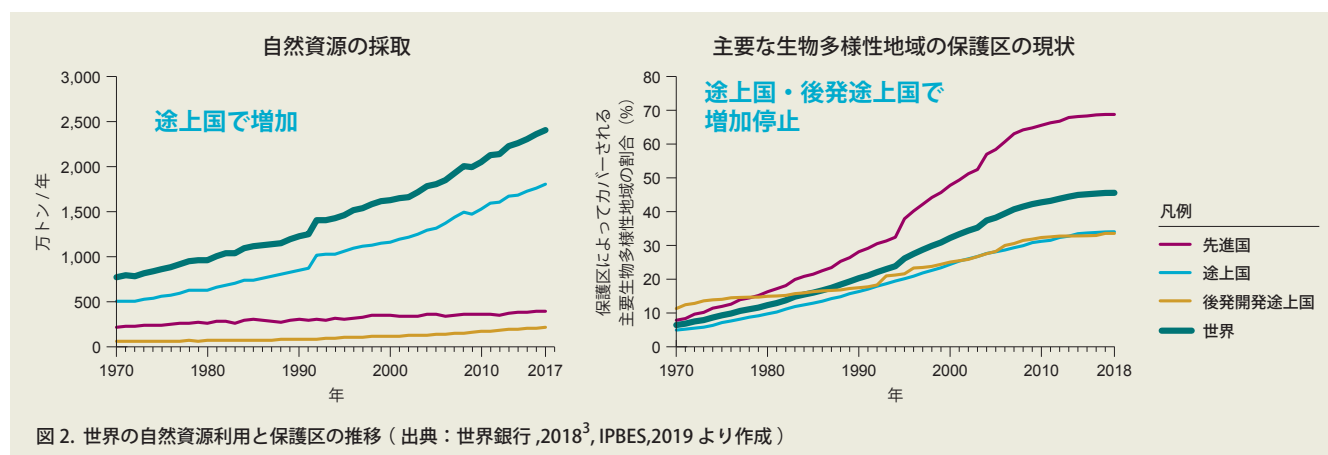


図 1. 生物多様性回復シナリオ（出典：Leclère, 他, 2020）²



² Leclère, D., Obersteiner, M., Barrett, M., Butchart, S. H. M., Chaudhary, A., et al. (2020). Bending the curve of terrestrial biodiversity needs an integrated strategy. Nature.

³ World Bank. (2018). World Bank open data.

生物多様性の危機的減少：生きている地球指数は 1970 年から 68% 低下

生物多様性の傾向を測る指標「生きている地球指数 (LPI)」は、地球全体で、1970～2016 年の間に、哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、魚類の個体群が平均 68% 低下したことを示しています (図 3)⁴。他の指標をみても、いずれも生物多様性が減少していることを示しています。ひとつは、改変前と比べて生物多様性が残されている割合を示す「生物多様性完全度指数 (BII)」。

BII をみると、アジア太平洋地域がもっとも悪化していることがわかります (図 4)。また、種の生存確率を示す「IUCN レッドリスト指数 (RLI)」。

RLI によると、サンゴ類は激減、植物のソテツ類はすでに深刻な状況です (図 5)。さらに、生息地の変化の度合いをみる「種の生息地指数 (SHI)」。

SHI からは、生息地が短期間で減少していることが読みとれます (図 6)。

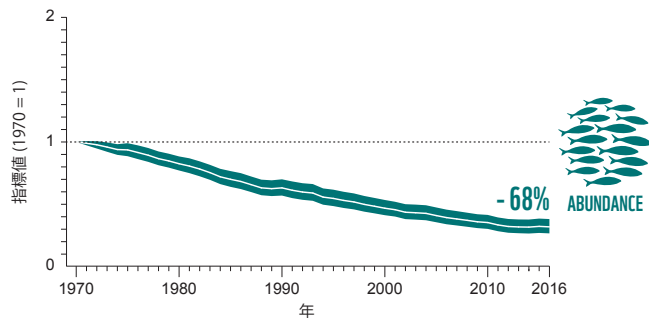


図 3. 世界の「生きている地球指数 (LPI: Living Planet Index)」

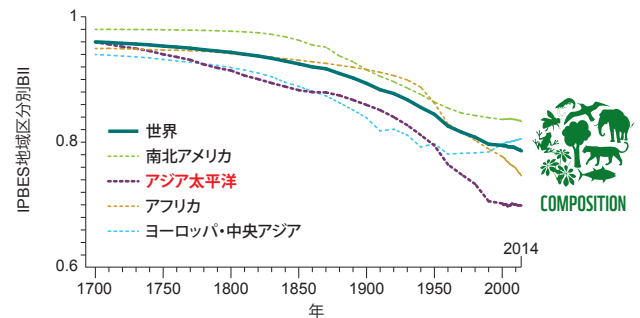


図 4. 生物多様性完全度指数 (BII: Biodiversity Intactness Index)

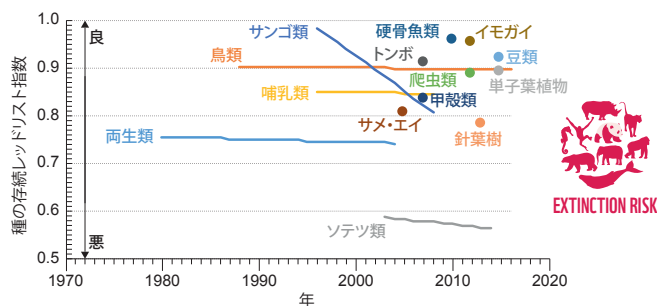


図 5. レッドリスト指数 (RLI: Red List Index)

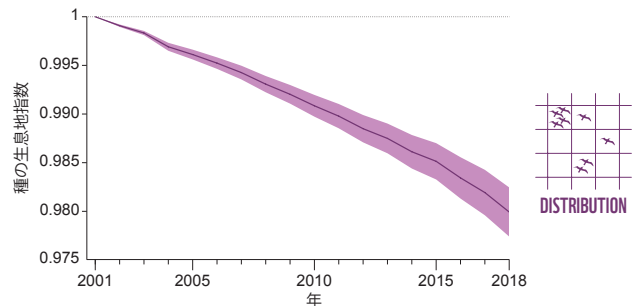


図 6. 種の生息地指数 (SHI: Species Habitat Index)

地球の生産力を越えた人間の消費：地球 1.6 個分

人間が生活や経済活動をととして消費し廃棄する量を測る指標「エコロジカル・フットプリント」によると、1970 年以降、人間の消費や廃棄の量は地球が生産し吸収できる量を越え、増加を続けてきました。これは、人間の需要が地球の供給能力を超過し、自然資本の元本を食いつぶしている状態です。2020 年には地球が 1 年間に生産できる範囲を約 60% 超過しています (図 7)⁵。つまり、今の生活を維持するには地球 1.6 個分の自然資源が必要です。

一方、2020 年予測ではエコロジカル・フットプリントが約 10% 減少します。新型コロナウイルスの影響により、人々の移動など消費行動が抑えられたことに起因するものです。これは人々の行動が変われば環境負荷が変化することがわかる機会となりましたが、意図したものではありません。重要なのは、目標を設定し、計画的に経済のしくみやライフスタイルを転換することです。

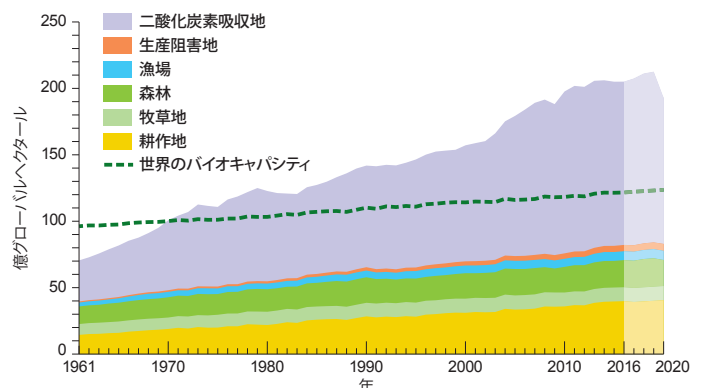


図 7. 世界のエコロジカル・フットプリント推移
(出典：グローバル・フットプリント・ネットワーク, 2020)

4 WWF/ZSL. (2020). The Living Planet Index database. <www.livingplanetindex.org>.

5 Global Footprint Network. (2019). National Footprint accounts 2019 edition.

地球の健康と 人間の健康はひとつ： ワンヘルス

人間の健康な生活は、湿地のろ過と浄化の働きによる淡水の供給や、植物に由来する伝統薬や医薬品など、さまざまな自然の機能やサービスに支えられています⁶。自然の衰退は人間の健康に大きく影響します（図8）⁷。

例として、新型コロナウイルスのような感染症があります。ここ数十年の間に、人間、家畜、野生動物との接触が大幅に増え、動物を起源として人に感染する人獣共通感染症の発生が増加しています⁸。農業や畜産に利用するため、森林伐採を拡大することは、ウイルス感染のリスクを制御する生態系を壊してしまうことになります。

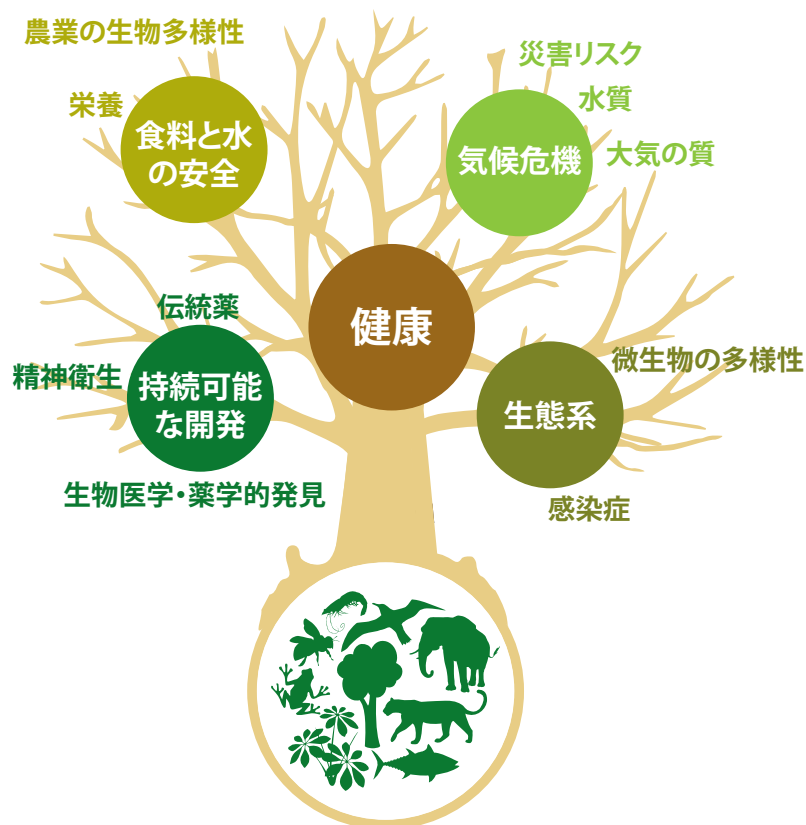


図8. 生物多様性と健康（出典：WHO, CBD, 2015）

まとめ

人類の歴史にない深刻な地球環境の危機に直面する今、地球の限界を無視したこれまでの経済のしくみは続けられなくなります。新たに、自然を基にした経済を構築することで、最終的には社会の繁栄は地球の健全さのもとでしか成り立たないことに気づきます。

地球環境の回復と経済の発展とを両立させる「グリーン・リカバリー」の実現にむけて、国、地方自治体、事業者、すべての人々がひとつになって具体的な施策を行動に移すときです。WWFは、持続可能で豊かな未来をつくるために、政策決定者、ビジネスリーダーたちに対して、野心的な2030年目標を設定し、確実に実行するよう働きかけていきます。



© WWF / Simon Rawles

6 Atanasov, A. G., Waltenberger, B., Pferschy-Wenzig, E.-M., Linder, T., Wawrosch, C., et al. (2015). Discovery and resupply of pharmacologically active plant-derived natural products: A review. *Biotechnology Advances* 33:1582-1614. doi: 10.1016/j.biotechadv.2015.08.001.

7 WHO/CBD. (2015). Connecting global priorities: Biodiversity and human health. World Health Organization (WHO) and Secretariat of the Convention on Biological Diversity (CBD).

8 Global trends in emerging infectious diseases. *Nature* 451:990-993. doi: 10.1038/nature06536.

「生きている地球レポート」は、1996年以降、2年ごとに地球の状態を示すWWFの代表的な報告書。前回「生きている地球レポート2018」は28カ国語に翻訳、世界110カ国で発表。このファクトシートは2020年版報告書をもとに作成しました。

URL <https://www.wwf.or.jp/activities/activity/4402.html>



人と野生生物が共に自然の恵みを受け続けられる世界を目指して、活動しています。

together possible.

www.wwf.or.jp

本件に関するお問い合わせ

WWFジャパン（公財）世界自然保護基金ジャパン
communi@wwf.or.jp Tel: 03-3769-1711
東京都港区三田1-4-18 三田国際ビル3階